

## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日までの1年  
定時株主総会 毎年6月に開催します。  
剰余金の配当の基準日  
    期末配当 3月31日  
    中間配当 9月30日  
定時株主総会の基準日 3月31日  
    その他必要があるときは、予め公告して基準日を定めます。

株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部

事務取扱場所 東京都中央区八重洲一丁目2番1号  
郵便物送付先 168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
みずほ信託銀行株式会社 証券代行部

電話お問い合わせ先 ☎ 0120-288-324 (フリーダイヤル)  
受付時間は9:00~17:00 (土日祝日を除く)

特別口座に関する  
事務取次所 みずほ証券株式会社本店および全国各支店  
プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)  
みずほ信託銀行株式会社本店および全国各支店

公告方法 電子公告とし、当社ホームページに掲載いたします。  
なお、電子公告によることができない事故その他  
やむを得ない事由が生じたときは、大阪市において  
発行する産業経済新聞に掲載いたします。  
(ホームページ) <http://www.kurimoto.co.jp>

単元株式数 100株  
上場証券取引所 東京証券取引所  
証券コード 5602

### ■ 100株未満の株式をお持ちの株主様へ

当社の単元株式数(売買単位)は、100株です。  
一方、単元未満株式(1~99株)につきましては、証券市場で売却することはできませんが、当社に対して買取を請求して売却できる制度をご利用いただけます。お手続き等の詳細は、お取引の証券会社もしくは、上記のみずほ信託銀行までお問い合わせください。

### ■ 株式に関するお問い合わせ先

- 証券会社に株式をお預けの株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求、配当金の受け取り方法の変更等、株式に関する各種お手続きは、お取引の証券会社にお問い合わせください。
- 証券会社に株式を預けておられない株主様の場合、当社がみずほ信託銀行に開設しております「特別口座」にて株式を管理しています。特別口座の株式は、単元未満株式の買取請求を除き売買できませんので、証券会社に株主様名義の口座を開設し、株式を振替されることをお勧めいたします。お手続き等の詳細は、特別口座の口座管理機関である、上記のみずほ信託銀行へお問い合わせください。
- 未払配当金のみ、みずほ銀行全国本支店でもお取扱いいたします。

ホームページで最新情報を即座に発信

<http://www.kurimoto.co.jp>



KURIMOTO REPORT 2018

<http://www.kurimoto.co.jp/csr/>



株式会社 栗本鐵工所



KURIMOTO

第123期

年次報告書

2018年4月1日～2019年3月31日



CORPORATE MESSAGE

コーポレートメッセージ

# モノづくりで未来を創る、 クリモト

クリモトは、1909年の創業以来、  
お客様満足第一のモノづくりに徹して、社会のインフラ整備、  
ライフラインや産業設備の拡充に貢献してきました。  
これからも、110年で培った技術力にさらに磨きをかけ、  
独自の技術と製品・サービスで社会の生命線と人々の暮らしを守り、  
社会に貢献し続けたい。  
そして、チャレンジ精神・創造力溢れるオンリーワン企業へ。  
それが、クリモトの願いです。

CORPORATE PHILOSOPHY

企業理念

私達は水と大気と生命(いのち)の惑星、地球を大切にし、  
人間社会のライフラインを守ります。

私達は「安心」という価値を提供し、  
社会と顧客の信頼に応えます。

私達は顧客の声をよく聴き、顧客から学び、  
独自の技術を深め、新しい技術を加え、  
顧客にオリジナルな「最適システム」を提案します。

私達はモノづくりを通して、  
社員の幸せと人間社会の幸せを目指します。

私達はこれらの実践のため、  
コンプライアンス経営を徹底し、  
継承と変革の調和を計り、個性と創意を尊重し、  
企業の発展と社会への貢献に努めます。

## CONTENTS

3	トップコミットメント
5	中期3か年経営計画
7	事業の概況
8	事業部別営業品目の紹介
9	TOPICS
11	財務ハイライト
12	連結財務諸表
13	株式の状況
14	会社概要

表紙写真：北海道 さくらの滝  
P1、P2写真：岐阜県 付知峡

## ステークホルダーの皆様へ

現有事業を堅持し、  
ある事業領域では  
境界線を越え、  
持続的成長を達成します。

株式会社 栗本鐵工所 代表取締役社長

**串田 守可**

平素は当社グループの事業運営に格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は1909年2月に鋳物技術を活用した水道用鋳鉄管製造をもとに創業して以来、快適で安心して暮らせる社会の実現のため、100年あまりにわたって社会のインフラ整備、ライフラインや産業設備の拡充に取り組んでまいりました。当社グループをお引き立て、ご愛顧いただいておりますステークホルダーの皆様には厚く御礼申し上げます。

さて、昨今の当社を取り巻く事業環境は、ますます混迷を深めております。国際情勢では、米中貿易戦争の長期化、合意を伴わない英国のEU離脱懸念など、さまざまな面から不透明感が増しています。一方、日本国内においては、



東京オリンピックに向けた準備が待たなしで進む中、2025年の大阪万博開催が決定しました。その高揚感に湧く一方で、10月実施予定の消費税アップによる景気減速といった懸念も続いております。

このような情勢の中で、当中期3ヵ年経営計画の初年度となった2018年度業績は、期初計画値と比較いたしますと売上高、営業利益とも上振れとなりましたが前年度比較としては増収減益であり、またセグメントによっては非常に厳しい結果となるなど、依然として不透明な状況が続いております。

当中期3ヵ年経営計画では、「変えてはならないもの」すなわち1909年の創業以来、100年以上にわたって我々

の先輩諸氏が築き上げてきた、お客様からの「信頼」を絶対に変えないために、「変えなければならないもの」を毅然と変えていこうとしております。

「変えなければならないもの」の一つとして掲げているキーワードが“事業の境界線”です。当社グループは各セグメント、各事業毎に事業領域が分かれておりますが、これまでこの事業領域にある程度安住してしまい、これを変えようという取組を後回しにしてきたのではないかとの反省があります。既存の事業領域を堅持することはもちろんですが、ある領域では、これを越えて行くことによって初めて「変えてはならないもの」(=お客様の信頼)をこれからも保持し続けることができると考えております。

この“事業の境界線”を越えていくためには、我々当社グループの従業員一人ひとりが改めて一丸となり、「変わる」、いや「変える」ことを恐れない価値観を共有していかなければならないと考えております。

今年度は当社創業110年目にあたることもあり、2019年4月より新たなグループシンボルロゴの運用を開始しました。その他、新たな交通広告やプロモーションの展開を行うなど、5年先、10年先を見据えたクリモブランド確立に向けた諸施策を推進しております。

また、今年度には、CFRP事業展開の新たな拠点となる「クリモコンポジットセンター」が稼働するなど、将来を見据えた持続的成長の芽も着実に芽吹きつつあります。

変わることを恐れず、これまで、そしてこれからも、人や社会にとってより良い未来を創造することを目指し、当社グループは変わり続けてまいります。

## 経営理念

私たちは、  
全てのステークホルダーの  
期待と信頼に応え、  
常に最適なシステムを提供し、  
『夢ある未来』を創造します。

## ❖ 配当について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を最重要政策のひとつと位置付けており、安定的、継続的に配当を実施することを基本方針といたしております。この度、2019年3月期の業績および経営環境等を総合的に判断いたしました結果、2019年3月期の期末配当について1株当たり30円といたします。

当社は2019年2月に、創立110周年を迎えました。長きにわたり、事業活動を継続できたことは、ひとえにステークホルダーの皆様のご指導、ご鞭撻の賜物です。

これからもより一層のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

クリモトグループが策定した中期3ヵ年経営計画では、経営理念に基づき、現有事業の境界線を越える新たな取組により、事業規模拡大と収益向上の実現を目指します。

## 中期3ヵ年経営計画(2018~2020)

前中期3ヵ年経営計画の反省も踏まえ、社会のトレンドに合致した事業基盤を築くため、この度、経営理念および2018~2020年度を計画年度とする中期3ヵ年経営計画を策定いたしました。

### ❖ 経営理念

この度、クリモトグループの従業員一人ひとりが共有すべき経営理念を新たに制定いたしました。

この理念は、当社が有する普遍的企業理念に基づき、未来に向けて当社グループが目指す方向性を、企業理念・経営理念・社是・企業行動基準を体系化した上で、あらためて定めたものになります。

**経営理念**

私たちは、  
全てのステークホルダーの  
期待と信頼に応え、  
常に最適なシステムを提供し、  
『夢ある未来』を創造します。

#### 「最適なシステム」とは(例)

- |                  |                                                                                                                                                                         |
|------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| パイプシステム<br>セグメント | <ul style="list-style-type: none"> <li>耐震型ダクタイル鉄管、バルブなどの製品を活用した国土強靱化に寄与する管路システムの提案</li> <li>DB(設計・施工一括発注)方式に対応する、当社が持つ新技術・ノウハウを活かした効果的でお客様にメリットの多い管路更新プランの提案</li> </ul> |
| 機械システム<br>セグメント  | <ul style="list-style-type: none"> <li>お客様のニーズ、要求性能に最適な産業機器の設計、プラントエンジニアリングの提案</li> <li>お客様における産業機器の稼働を止めない保守、メンテナンス、維持管理の提案</li> </ul>                                 |
| 産業建設資材<br>セグメント  | <ul style="list-style-type: none"> <li>各種産業分野におけるお客様や社会の要求に応える最適な製品、サービス、ソリューションの提案</li> </ul>                                                                          |

### ❖ 事業の方向性

経営理念に基づき、さまざまな社会の課題、要請に対して、当社技術のイノベーションにより「夢ある未来」の実現に向け、ソリューションを提供してまいります。

その上で、現有事業の事業基盤を確立しつつ、新たな事業規模拡大、収益性向上を目指し、次の100年に向けた持続的成長を達成してまいります。

**中期3ヵ年経営計画メインテーマ**

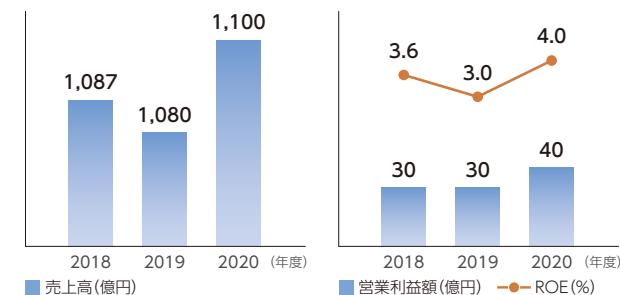
現有事業の境界線を見定め、  
ある領域ではそれを堅持し、  
ある領域ではそれを越えていく。

### ❖ 社会の課題とクリモトグループの新たな取組の関連性

老朽化する社会インフラ	● 上水道施設	← 水道施設の効率的な更新・耐震化を提案
	● 農業用水	← 管路の洗浄や更生による機能回復
	● 道路、鉄道	← 維持管理・補修による延命化
低炭素社会への対応	● 自動車EV化への対応	← 二次電池製造プロセスへの革新的な製造システムの提案
	● 自動車など移動体軽量化への寄与	← CFRP*1など新素材の提案
人口減少による社会構造の変化	● 水需要の減少・水道事業の民営化	← 水道事業運営ビジネスへの参画
	● 建設現場での省人化ニーズ	← プレキャストコンクリート*2製品提供などによる貢献
	● ロボット化社会の進展	← 新たな素材やハプティクス分野*3での貢献

### ❖ 業績目標

本計画では、2020年度に売上高1,100億円、営業利益40億円(営業利益率3.6%)、ROE(自己資本当期純利益率)4.0%を達成することを目標として設定しています。



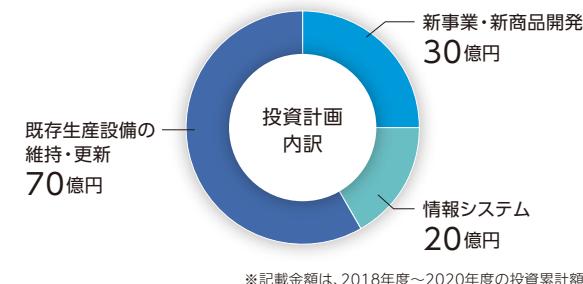
### ❖ 投資計画

当中期3ヵ年経営計画期間の営業キャッシュフローを元に、3年で約120億円規模の投資を計画しております。

特に、新事業、新技術に向けた投資として約30億円、IoT含めたシステム関連投資として20億円等に重点的に投資を行ってまいります。

### ❖ 配当

成長投資とのバランスを鑑みつつ、金融市場の期待に応える株主還元を実施するべく、配当性向30%超を目指してまいります。



※1 CFRP:炭素繊維強化プラスチック

※2 プレキャストコンクリート:現場で組み立て、設置を行う為に、工場などであらかじめ製造されたコンクリート製品あるいはこれを用いた工法

※3 ハプティクス:触覚を通じて情報を伝達する技術



パイプシステム事業

売上高 **562**億円

「パイプシステム事業」は、売上高につきましては、鉄管部門で中大口径管の出荷が増加したことに加え、バルブ部門で化学プラント向けの出荷が増加したことなどで、前連結会計年度比955百万円増収の56,228百万円となりました。

営業利益につきましては、増収により増益となった反面、鉄管部門においては依然として価格競争が激化していることに加え、原材料価格等の高止まり、台風被害により一部の工場が生産量が減少した影響などもあり、前連結会計年度比404百万円減益の891百万円の利益となりました。



機械システム事業

売上高 **259**億円

「機械システム事業」は、売上高につきましては、素形材部門において出荷が増加したものの、機械システム部門の粉体機器で前年に比べ大型物件の出荷が少なかったことなどで、前連結会計年度比1,459百万円減収の25,922百万円となりました。

営業利益につきましては、機械システム部門の減収の影響などで、前連結会計年度比191百万円減益の1,598百万円の利益となりました。

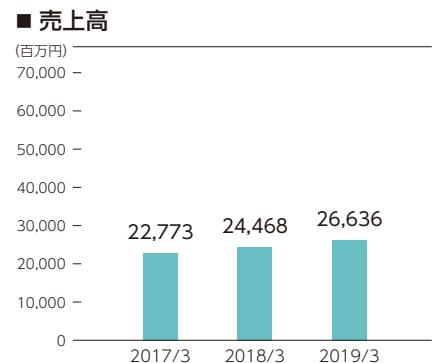


産業建設資材事業

売上高 **266**億円

「産業建設資材事業」は、売上高につきましては、建材部門において建築製品、土木製品を中心に出荷が増加したことに加え、当連結会計年度より連結子会社が増加したことも寄与し、前連結会計年度比2,167百万円増収の26,636百万円となりました。

営業利益につきましては、原材料等の価格が上昇傾向であったものの、建材部門の増収に加え、新規連結子会社の増加が寄与し、前連結会計年度比311百万円増益の738百万円の利益となりました。



パイプシステム事業

鉄管事業部



人々の暮らしを地下で支える水道管やガス管。身近な暮らしの場面から大きな役割を担うこれらのダクタイル鉄管は、大都市・郊外・農村などあらゆる所で活躍しております。

■ 営業品目 ダクタイル鉄管(直管、異形管、接合部品)、耐摩耗管、管路の設計、施工、施工監理業務および管路調査、点検等の維持管理業務

バルブ事業部



浄水場などの官需分野から、発電所・製鉄所・プラントなどの民需分野、海外向けのバルブを多数取り扱っております。

■ 営業品目 バタフライ弁、ソフトシール仕切弁、スリープ弁、火力・水力発電設備用バルブ、貯水槽用緊急遮断弁、各種調整弁、高炉用弁類、スプリングラー用予作動式(負圧湿式)流水検知装置

機械システム事業

機械システム事業部



さまざまな産業の生産ラインを支える産業機械設備は各種製品を世に送り出す一翼を担っています。また、単体設備からトータルエンジニアリングまで、幅広く社会に貢献してまいります。

■ 営業品目 微粉砕機、分級機、造粒機、乾燥機、焼成機、混合・混練・分散機、反応機、溶剤回収装置、二次電池材料製造装置、各種産業機械、試験機械、プラントおよびシステム設備、鍛造プレス、バンディングロール、鍛圧機各種周辺装置、プラントエンジニアリング事業/各種プラントの設計、製作、調達、建設、試運転およびメンテナンス

素形材エンジニアリング事業部



破砕技術・材料技術を有する素形材エンジニアリング事業部の商品群は、骨材資源業界、鉄鋼業界、電力業界、セメント業界、鉄道運輸業界を網羅して各種産業分野で活躍しております。

■ 営業品目 破砕機、粉砕機、分級機、搬送機械、耐摩耗鋳物、耐熱鋳物、耐摩耗ポンプ、鉄道用ブレーキディスク、プレーキライニング、(英) TEREXFINLAY商品

産業建設資材事業

建材事業部



幅広い製品ラインナップと迅速なデリバリーで皆様の期待にお応えしております。

■ 営業品目 スパイラルダクト、各種フレキシブルダクト、サイレントフレックス、各種消音製品、ステンレスダクト、スーパースパイラル、プレミアムスパイラルダクト、ワインディングシース、ポリエチレンシース、ワインディングパイプ、中空スラブ、各種耐震製品、梁貫通孔補強筋(スーパーパーリー 2)、段ボールダクト(コルエアダクト)、消音・騒音対策事業(測定・設計・製作・施工・確認)、透光型吸音パネル(ビュースーン)、ハーフプレキャスト製品(カイザースラブ・カイザーバルコニー)、PCシステム階段

化成品事業部



FRPが持つ多機能で自由度の高い特性を活かし、真に信頼される製品づくりを目指して、広く社会基盤の整備に貢献してまいります。

■ 営業品目 強化プラスチック複合管(FRPM管)、強化プラスチック管(FRP管)、強化プラスチック複合板(FRPM板)、FRPコア、FRP引抜成形品、各種合成樹脂成形品

TOPICS  
1

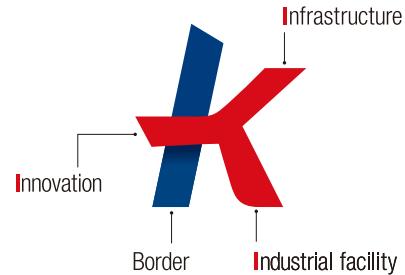
## 創立110周年 クリモグループシンボルロゴ 刷新

当社は、創業以来110年間堅持してきた「栗本鐵工所」の安心感や信頼感を維持しつつ、「変わる」イメージによって将来に向けた期待感をステークホルダーおよび当社をこれから知っていただく方々に対して訴求するために、このたびクリモグループシンボルロゴを制定しました。

# KURIMOTO

### デザインの解説

- これまでのコーポレートカラーであるクリモブルーを継承し、「伝統」を表現しつつ、鮮やかなクリモレッドを差し色に使うことで「挑戦」の意志を表現しています。
- 「K」の文字には、3つの「I」(Infrastructure<インフラ>、Industrial facility<産業設備>、Innovation<イノベーション>)が織りなす矢が、境界線を越えていくイメージを表現しています。



TOPICS  
3

## クリモパイプエンジニアリング株式会社 設立

当社は、2018年10月1日にクリモパイプエンジニアリング株式会社を設立致しました。当社鉄管事業部では、これまで上水道、下水道、農業用水および工業用水分野においてさまざまな技術・ノウハウを蓄積してまいりました。クリモパイプエンジニアリング株式会社では、この技術・ノウハウを活かし、管路の調査、診断、点検、企画、設計、施工、維持管理、更生など幅広いソリューションをお客様に提供することにより、今後の水道事業が直面するさまざまな課題解決に貢献してまいります。

TOPICS  
2

## クリモブランド展開

2019年は創立110周年をきっかけとした「クリモブランド」構築元年として、新しいグループロゴを4月から使用するなど、さまざまなプロモーションを順次行っていきます。

- 東海道新幹線ホーム(東京・名古屋・新大阪)・大阪メトロ四ツ橋駅に広告掲出



- 「110周年特設サイト」公開

新しいコーポレートカラーを基調としたデザインを採用し、スペシャルコンテンツとして事業領域の境界線を越えていく新製品やプロジェクトの取り組みを紹介しています。



- クリモイメージソング制作

社員のみなならず、すべてのステークホルダーをエンカレッジ(勇気づけ)し、クリモに親しみを持ってもらえるような企業イメージソングを目指し、現在制作を行っています。近日、110周年特設サイトにて公開を予定しています。



## クリモパイプエンジニアリング株式会社

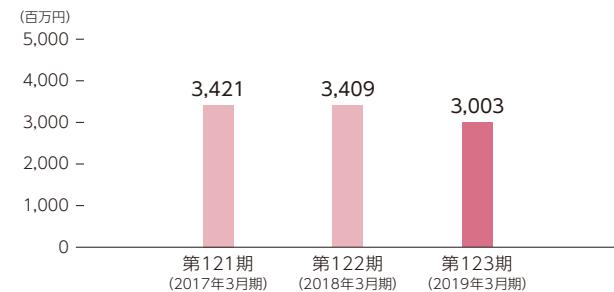
名称	クリモパイプエンジニアリング株式会社
所在地	大阪市住之江区泉2丁目1番64号 (株式会社栗本鐵工所 加賀屋工場内)
代表取締役の役職・氏名	代表取締役社長 原田 新
設立年月日	2018年10月1日

事業内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 上水道、下水道、農業用水および工業用水分野における管路、施設の調査、診断、点検、企画、設計、施工、維持管理、更生等</li> <li>● 土木工事、建築工事、水道施設工事、管工事の企画、設計、施工、施工監理およびこれらのコンサルティング業務</li> <li>● 資機材のメンテナンス、リースおよび販売</li> </ul>
------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

■ 売上高



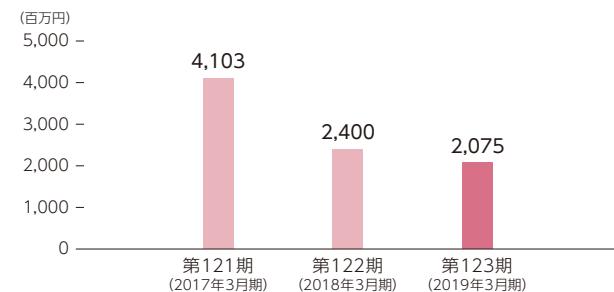
■ 営業利益



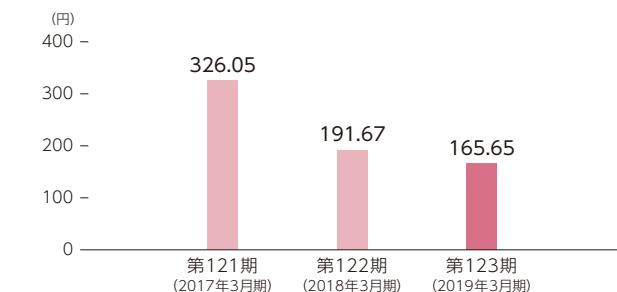
■ 経常利益



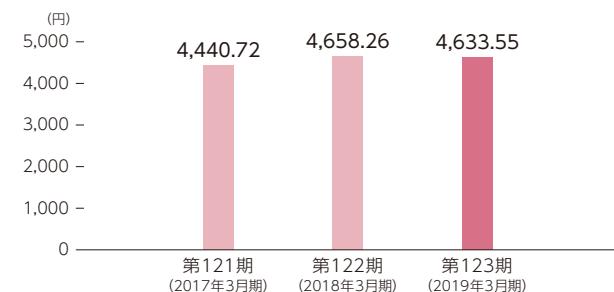
■ 親会社株主に帰属する当期純利益



■ 1株当たり当期純利益



■ 1株当たり純資産額



■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2019年3月31日現在	2018年3月31日現在
<b>(資産の部)</b>		
流動資産	87,774	85,376
固定資産	48,695	49,746
有形固定資産	31,121	30,792
無形固定資産	745	749
投資その他の資産	16,828	18,204
資産合計	136,469	135,122
<b>(負債の部)</b>		
流動負債	64,328	61,756
固定負債	13,274	14,266
負債合計	77,602	76,022
<b>(純資産の部)</b>		
株主資本	57,493	56,136
資本金	31,186	31,186
資本剰余金	6,880	6,880
利益剰余金	21,178	19,830
自己株式	△ 1,750	△ 1,761
その他の包括利益累計額	576	2,214
その他有価証券評価差額金	2,013	3,348
為替換算調整勘定	5	18
退職給付に係る調整累計額	△ 1,442	△ 1,151
非支配株主持分	797	748
純資産合計	58,867	59,100
負債・純資産合計	136,469	135,122

■ 連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2018年4月1日から 2019年3月31日まで	2017年4月1日から 2018年3月31日まで
売上高	108,786	107,122
売上原価	84,147	82,472
売上総利益	24,639	24,650
販売費及び一般管理費	21,636	21,240
営業利益	3,003	3,409
営業外収益	662	632
営業外費用	465	965
経常利益	3,200	3,077
特別利益	588	471
特別損失	1,201	145
税金等調整前当期純利益	2,587	3,403
法人税、住民税及び事業税	610	532
法人税等調整額	△ 155	430
法人税等合計	454	963
当期純利益	2,133	2,440
非支配株主に帰属する当期純利益	58	40
親会社株主に帰属する当期純利益	2,075	2,400

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当連結会計年度	前連結会計年度
	2018年4月1日から 2019年3月31日まで	2017年4月1日から 2018年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,141	9,522
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,918	△ 745
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 4,211	△ 4,349
現金及び現金同等物に係る換算差額	11	△ 22
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 1,976	4,404
現金及び現金同等物の期首残高	23,134	18,226
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	350	461
連結子会社の合併による現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	—	40
現金及び現金同等物の期末残高	21,507	23,134

## ■ 株式の状況

(2019年3月31日現在)

発行可能株式総数	39,376,600株
発行済株式の総数	13,398,490株
単元株式数	100株
株主数	7,585名

## ■ 大株主(上位10名)

(2019年3月31日現在)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
太陽生命保険株式会社	1,209	9.6
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	797	6.3
日本生命保険相互会社	678	5.3
株式会社りそな銀行	444	3.5
日本マスタートラスト 信託銀行株式会社(信託口)	423	3.3
株式会社みずほ銀行	362	2.8
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 みずほ銀行口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	320	2.5
岩谷産業株式会社	289	2.3
株式会社三井住友銀行	272	2.1
ガバメント オブ ノルウェー	259	2.0

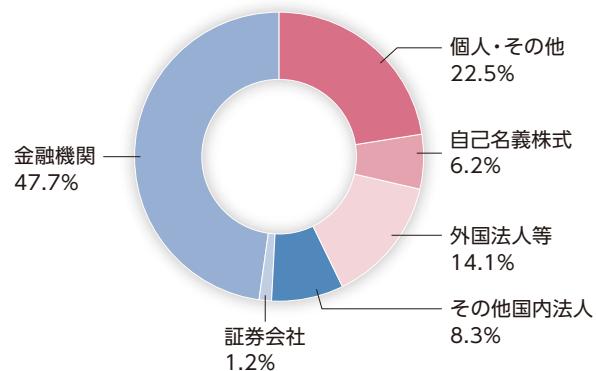
※1 当社は自己株式(826,908株)を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。

※2 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

※3 自己株式には、株式給付信託(BBT)の信託財産として資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式39,043株は含んでおりません。

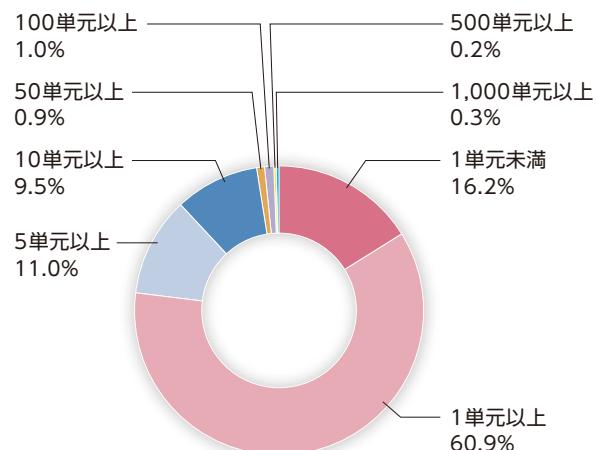
## ■ 所有者別株式分布状況

(2019年3月31日現在)



## ■ 所有株式数別株主分布状況

(2019年3月31日現在)



## ■ 会社の概要

(2019年3月31日現在)

社名	株式会社 栗本鐵工所
英文社名	Kurimoto, Ltd.
創立	1909年2月2日
設立	1934年5月10日
資本金	31,186,098,159円
従業員数	1,336名(単体) 2,108名(連結)

## ■ 役員

(2019年6月26日現在)

代表取締役社長	串田 守可
取締役専務執行役員	澤井 幹人
取締役専務執行役員	岡田 博文
取締役常務執行役員	屋地 幹生
取締役上席執行役員	新宮 良明
取締役上席執行役員	菊本 一高
社外取締役	大槻 延廣
社外取締役	近藤 慶子
常勤監査役	村田 実
社外監査役	箱崎 一彦
社外監査役	有田 真紀
上席執行役員	近藤 一晴
上席執行役員	小島 眞也
上席執行役員	佐藤 尚人
上席執行役員	織田 晃敏
執行役員	斎藤 直史
執行役員	生田 伸
執行役員	福井 武久
執行役員	宮崎 隆行
執行役員	吉永 泰治
執行役員	上田 高生
執行役員	野口 安次
執行役員	浦地 好博

## ■ クリモグループ

## 国内関係会社

栗本商事株式会社  
ヤマトガワ株式会社  
北海道管材株式会社  
クリモロジスティクス株式会社  
クリモパイプエンジニアリング株式会社  
株式会社本山製作所  
株式会社ケイエステック  
八洲化工機株式会社  
ジャパンキャストリング株式会社  
日本カイザー株式会社  
株式会社ゼンテック  
クリモポリマー株式会社  
株式会社クリモビジネスアソシエイツ

## 海外関係会社

栗光股份有限公司  
栗鉄(上海)貿易有限公司  
Readco Kurimoto, LLC  
Kurimoto USA, Inc.  
KURIMOTO (PHILIPPINES) CORPORATION